

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	奏かなで 大門			
○保護者評価実施期間	2026年2月4日		～	2026年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33世帯	(回答者数)	22世帯
○従業者評価実施期間	2026年2月4日		～	2026年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	音楽療法士の配置と、音楽経験を持つ職員を中心に療育プログラムを工夫することができる。 また、外部の事業所にも音楽療法を提供しており事業所間交流に取り組んでいる。 全国音楽療法協会理事を務める職員、会員の職員も在籍しているので、情報共有や交流もおこなっている。	音楽療法プログラムや、楽器での演奏、歌、楽器作りだけでなく、誕生日時の生演奏や、PC、タブレットも有効的プログラムに組み込み、児童の好みに合わせた無理のない音楽との関わりを大切にしている。 各所でのステージイベントにも、貴重な体験として積極的に参加している。	計画的な療法提供をおこなうために、月間、年間計画を話し合う。 もっと深く個別支援計画と連動した療法プログラムの提供、支援をおこなう。 *療法士による定期的な勉強会の実施と職員間への落とし込み。
2	複数個所の畑を有していることや、自然の中での活動を多く取り入れながら、季節を通して自立力(生きる力)の育みに繋げていくことを理念としている。 従業員の平均年齢は高いが、それぞれに福祉以外の経験やキャリアも持ち合わせ、子どもたちへの支援、活動のアイデアに生かされている。	調理師の指導のもと、手作りおやつへのこだわりや、クッキング活動によって、子どもたちの達成感や自立力(生きる力)を育てている。 山、川、海、畑での活動、外部企業や団体との交流イベントも生かしながら、将来(就労)も見据えた支援プログラムを実施している。	家族や学校との連携、情報共有をさらに深めより効果的に個別支援計画に沿ったサービス提供がおこなえるように務める。 子どもたちの"挑戦したい"を尊重しながらもリスクマネジメントをしっかりとおこなう。
3	子ども食堂や音楽教室、不登校支援(学校の出席扱い)にも取り組んでおり、子どもたちの社会経験の場を提供するとともに、家族支援、地域交流も大切にしている。	保護者会、家族相談をはじめ、親の会、地域での研修会への積極的な参加をおこなっている。ペアレントメンターさんのお話を聞く機会や、各関連機関や専門機関と協力をおこない、実際に児童、ご家族の方々が参加・体験できる環境を工夫している。	職員間での周知、連携を高めながら取り組みの内容や実施環境の整備をおこなう。 協力機関との連携継続と年間計画による効果的なサービス提供を検討する。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員間、家族間での情報伝達や、スムーズかつ正確な情報共有・支援実施について。	出勤時間の違いや、送迎業務ほかへの対応で休日だった職員やパート職員への引き継ぎや、情報共有の難しい場面がある。また、規定、マニュアル、研修内容の職員全体への落とし込みや、周知も徹底されていない。 ご家族への事業所での取り組み、専門性をうまく伝えられていない。	従来のミーティング・会議の形を効率化するとともにランチミーティングや、勉強会、内部研修の機会も設け、職員全体で統一した支援をおこなっていく。 ご家族への伝達方法や、情報共有の機会を改善する。 ・連絡帳の改善や懇談、保護者会の定期開催 ・保護者便りの発行とSNS発信の見直し
2	限られたスペースの中でも、子どもたちが安心安全に過ごせる環境を整える。	子どもたちの学年も上がり、身体の成長や活動力も活発になっていく中で、安心安全な療育スペースの整備を常に考えていかねばならない。	清潔な環境とともに、バリアフリーの整備も検討する。 課題のある箇所については、話し合いを重ね補修、改善を実施する。
3			